

チーム一丸で準優勝

6年 島袋颯聖

ぼくが、六年生でがんばりたいことは、責任をもつことです。最上級生として、いろんなことに責任感をもち、自分から進んで行動したいと思います。

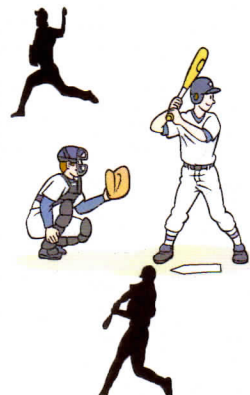
先日行なわれた、第二十二回北部地区少年野球選手権大会並びに第四回JAおきなわSS杯争奪学童軟式野球大会で準九州大会に準優勝し、九州大会に派遣されることが決まりました。

この大会では、キャプテンとして、チームをリードし、チームが一丸となって戦い、準優勝することができたのだと思います。

伊藝監督をはじめとする、コーチの皆さんがぼく達の野球の指導をしてくれていることに感謝しています。

この勢いで、「ドリーム大会」では、優勝し、甲子園行きの切符を勝ち取りたいです。

(琉球新報 4月23日掲載)



料理がもっと上手になりたい

3年 はなしろ みゆう

今日、お父さんと夕はんのおかず作りをしました。

材料は、じゃがいも、ねぎのはっぱ、とり肉ベーコン、大根で、しおとこしょう、あじのもとであじつけをしました。

最初に大根をいためて、次にとり肉、じゃがいも、ねぎのはっぱ入れていって、チャンプルーにしました。

私は、うまく材料をかきまぜることができなかったので、お父さんに手伝ってもらいながら、作りました。

食べてみると、とてもおいしかったです。でも、大根が太くきりすぎて、火が中までとおっていませんでした。

だから、お父さんやお母さんのように、子どものころから料理の練習をして、レストランの人みたいに、料理上手になりたいです

(琉球新報 4月28日掲載)



大好きなお母さん

4年 伊藝 丸

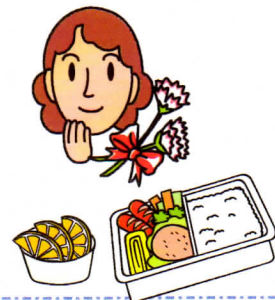
ぼくのお母さんは、いつもおいしいごはんやクッキーを作ってくれます。そんなお母さんが、ぼくは大好きです。

ぼくはお母さんの作ったごはんを食べると野球の試合や遊ぶときに力がわいてきます。

この間行なわれた北部選手けん大会では、じゅんゆうしょうすることができました。これは、お母さんの作ってくれたおべんとうのおかげだと思います。

お母さん、いつもおいしいおべんとうを、ありがとうございます。

(琉球新報 4月30日掲載)



校長室からちょっといい話 1

① 昨年度は、「子ども達、あいさつをしないんだよね。」という地域の方々の声がありました。この4月になって、「小学生の男の子が、ぼくの顔をしっかりと見て、立ち止まった『おはようございます』と大きな声であいさつしていくんだよ。気持ちがいいよ。校長先生、ほめてあげてくださいね。」「道路工事をしているの方々にもあいさつしているんですよ。」と、お褒めのことをいただいています。子ども達も意識して、あいさつをしているのだと思います。ただ、勇気を出して「おはようございます」と、あいさつしても時々、地域の方々から何も反応がない・・・と寂しそうな子どもの声も聞こえます。きっと声が小さくて聞こえなかったのかもかもしれません。「今度は、聞こえるように大きな声であいさつしようね。」と、話しています。

② 子ども達がスロージョギングをする様子を見ながら、運動場の草取りをするのは私の日課です。子ども達は、スロージョギングを終えると、その草取りを手伝ってくれます(写真1)。私が、昼休みや放課後に草花の手入れをしているときも、「校長先生、何か手伝いますか?」と声をかけてくれます。それも2年生の子ども達が多く声をかけてくれます。本当にお手伝い上手な松田っ子です。

③ 春の遠足。5年生のトモハルさんは、1年生の男の子と手をつないで、ヒーピーの浜へ向かいました。その時、トモハルさんは、その男の子が遠足なのにおやつのお菓子を忘れて持ってきていないことに気がきました。

お昼のお弁当時間の時、その1年生の男の子のリュックの側には大きなチョコレートのお菓子が置かれていました。トモハルさんからのプレゼントです。

きっとトモハルさんも遠足で食べるのを楽しみにしていたはずなのに、それも一番大きなものをプレゼント。トモハルさん、優しさをありがとう。その男の子は、はおかげで、とても楽しい遠足の思い出ができたようです。帰り道は、ニコニコの笑顔いっぱいでした。



写真1 草取りを手伝う子ども達